

「アブラハムとアビメレクの契約」

2021年02月03日

それゆえ、この場所をベエル・シェバと呼ばれるようになった。そこで二人は誓いを交わしたからである。彼らはベエル・シェバで契約を結び、アビメレクと将軍ピコルは立ってペリシテ人の地へと戻って行った。(創世記 21 章 31 節～32 節)

アブラハムとアビメレクとの間で起きた出来事が 20 章に記されている。アブラハムは、アビメレク王が支配するゲラルに入った。妻サラが美しいので、夫の自分は殺されると恐れ、妹ということにした。アビメレクはサラを召し入れたが、神からとがめられた。サラは夫のある身で、彼女を召し入れたことによって、あなたは死ぬことになる。妻サラを返しなさい。アブラハムは預言者で、あなたのために祈り、命を救ってくれる、と。彼は、アブラハムを呼んで、「あなたはしてはならないことを私にした」と責めた。アブラハムは言い訳をするが、アビメレクは一切咎めず、妻を返し、莫大な贈り物さえした。アブラハムの祈りによって、アビメレクの家の人たちは、閉ざされていた胎が開かれ、子どもを産むようになった。アビメレクは寛大で、高潔な王であるのに対し、アブラハムの方が裁かれても当然な振る舞いであったが、この時も、神の祝福に与っている。この時、アビメレクはアブラハムに並外れた人物像を見て、敬意を表したのではないか。

21 章では、アブラハムとアビメレクとの間で結ばれた契約が記されている。アビメレクは将軍ピコルを同行し、「あなたが何をなさっても、神はあなたと共におられます。さあ今ここで、私も、子や孫も欺かないと神にかけて誓ってください。私があなたに誠意を尽くしてきたように、あなたは、私にも、またあなたが滞在しているこの地にも同じように誠意を尽くしてください」と誠実であることの誓いを求めた。アビメレクは強力な軍隊を擁する力ある王である。アブラハムは家畜を飼う一介の遊牧民であった。両者が争えば、アビメレクが勝つことは目に見えている。しかし、アビメレクはアブラハムが神に祝福された特別な人物であるとして、敬意を表している。

この会談で、アブラハムは「私は誓います」と答えたが、自分たちが掘った井戸をアビメレクの僕たちが奪ったことを咎めた。井戸は、一族郎党と家畜を養う貴重で、莫大な財産である。掘ったのはアブラハムであったが、土地はアビメレクのものである。僕たちが奪ったことも理解できる。ところがアビメレクは、そのような諍いがあったことを聞いてなく、全く知らなかった。彼は、その井戸について何も語っていないが、あなたが掘った井戸だから、自由に使ってくださいと言ったのではないか。ところが、アブラハムは無償で井戸を貰う訳にはいかず、羊と牛を用意して贈り、二人は契約を結んだ。アブラハムは更に、羊の群れの中から、7 匹の雌の小羊を別に分けた。アビメレクが、別に分けた雌の小羊は、何のためですかと聞くと、アブラハムは「私がこの井戸を掘ったという証拠となるようにです。私の手から七匹の雌の小羊を受け取ってください」と申し出ている。井戸の契約を結んだこの地をベエル・シェバと呼んだ。「ベエル」は井戸で、「シェバ」は 7 匹という意味である。アブラハムは死んだ妻のために墓地を買い求めた時も、無償でいいと言われるが、土地代に見合う十分な金額を支払っている。彼は、金品に対しては、極めて清潔な対応をしている。民族、部族抗争は生存をかけた激しいものだが、アブラハムとアビメレクは、穏やかで紳士的に契約を結んだ。アビメレクは高潔な王であり、アブラハムも欲張らず、当然の代価を払ったからであろう。神のアブラハムへの祝福は変わらない。